

『海洋プラスチック問題』 について学んでみよう

ペットボトルなどの容器包装から家庭用品やおもちゃまで、日常生活のあらゆる場所で利用されているプラスチック。

便利な一方で、ポイ捨てなど不適切に処分されたプラスチックごみが大量に海に流れ出て、海の環境を汚し、海の生き物にも悪影響を及ぼしています。

海のプラスチックごみを減らすために、私たち一人ひとりのプラスチックとの賢い付き合い方が問われています。



海洋プラスチック問題とは？

ご存知ですか。実はプラスチックごみの9割が、リサイクルされていないこと。毎年800万トン以上のプラスチックがゴミとして海に流れ込んでいること。すでにその数は銀河系の星の数より多く、2050年には魚の量より多くなると予測されていること。そして、一部は紫外線・海流・波で、マイクロプラスチックと呼ばれる細かい破片となり、有害物質が付着しやすくなり、鳥や魚がエサと間違えて食べ、その魚を私たちが食べていること。

こうした大量のプラスチックごみは、海の生態系に甚大な影響を与えており、私たちの生活にも悪影響を及ぼすとして、さまざまな国や企業がこの問題について取り組んでいます。



<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

*国際連合広報センター

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/beat_plastic_pollution/

海洋プラスチック問題の現状



毎年、世界では5兆枚のビニール袋が使われています。



水用のプラスチックボトルをつくるために毎年1700万バレルもの石油が使われています。



最近10年間だけで、20世紀で使用した以上のプラスチックが生産されました。



2016年、世界では4800億本もの飲料水用のボトルが売られました。



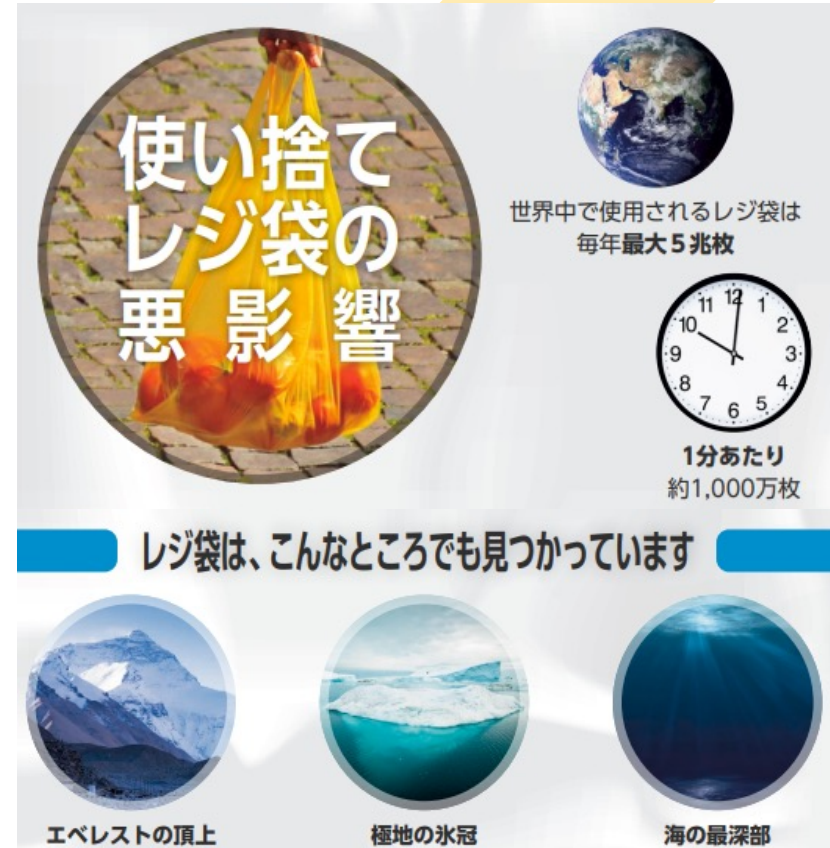
私たちが使っているプラスチックの50%は使い捨てです。



ゴミ全体の10%がプラスチックです。



1分間に100万本のプラスチックボトルが売られています。



使い捨てレジ袋の悪影響

世界中で使用されるレジ袋は毎年最大5兆枚

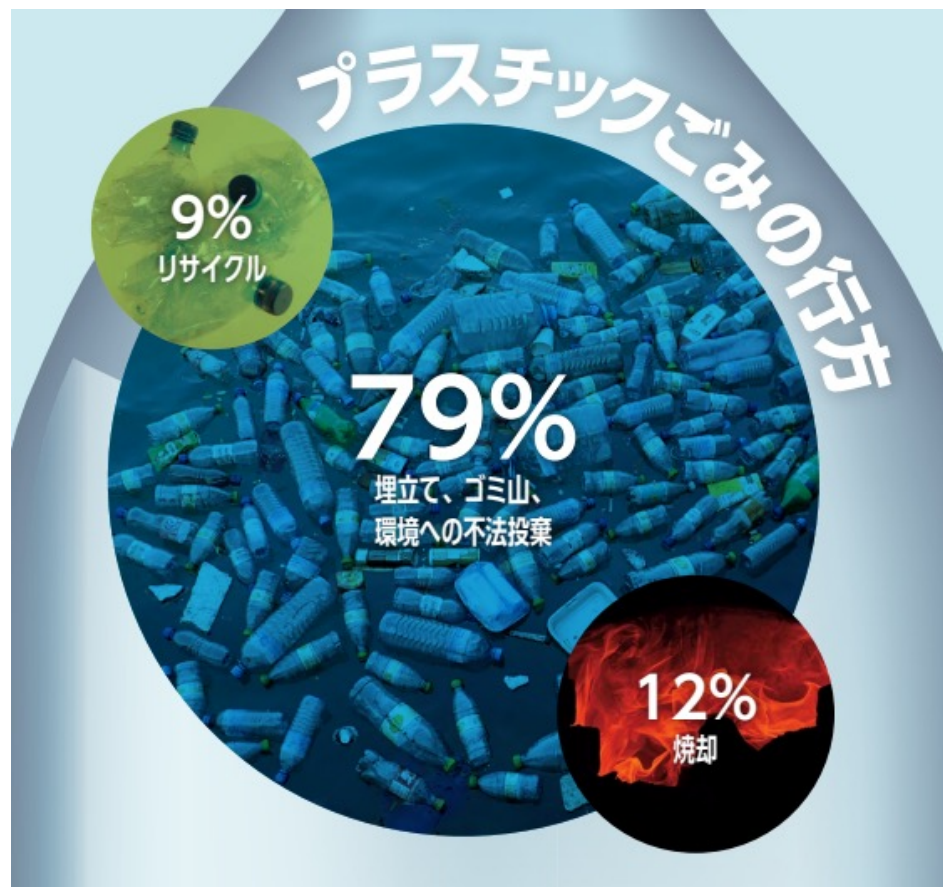
1分あたり約1,000万枚

レジ袋は、こんなところでも見つっています

- エベレストの頂上
- 極地の氷冠
- 海の最深部

*国際連合広報センター
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/beat_plastic_pollution/

海洋プラスチック問題の現状



実はプラスチックごみの9割が、リサイクルされていません。

海洋プラスチック問題の現状



多くのプラスチックがリサイクルされずに海に流れてしまっています。プラスチックごみだけでも、毎年約800万トン(重さにしてジャンボジェット機5万機相当)に及ぶ量が新たに流れ出ていると推定されています。

このままだと「**2050年には海のプラスチックごみの重量が魚の重量を上回る**」といわれています。

*国際連合広報センター

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/beat_plastic_pollution/

海洋プラスチック問題の現状



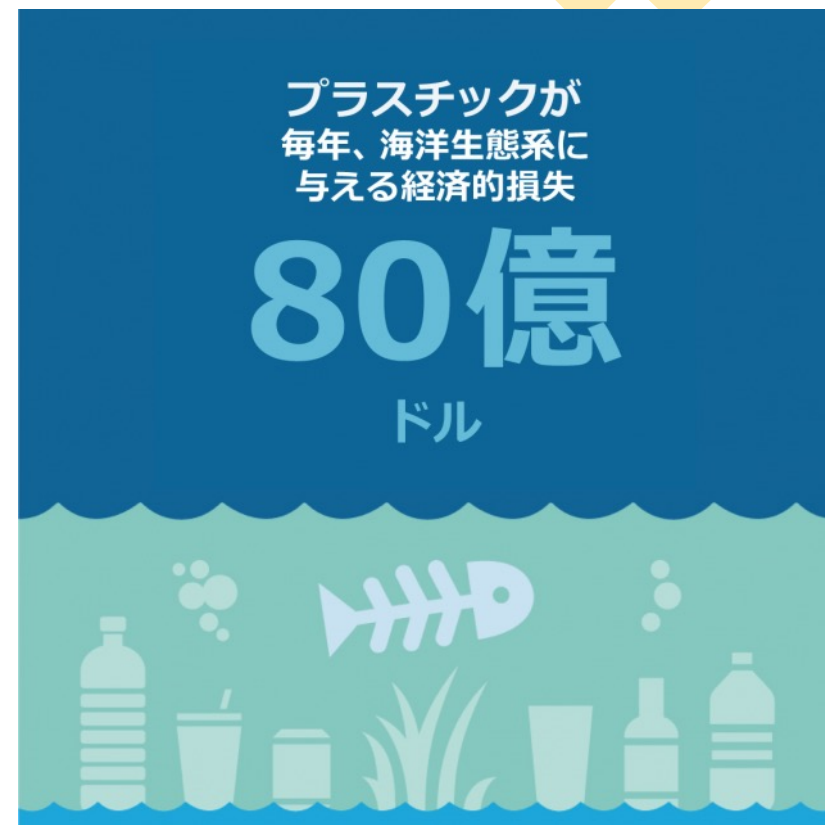
マイクロプラスチックを摂取した魚を食べることで間接的にわたしたちの体内にも入ってしまうことになり、**1週間にクレジットカード1枚分のマイクロプラスチック(約5グラム)を食べている**とされています。

*国際連合広報センター

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/beat_plastic_pollution/

海洋プラスチック問題の現状

海洋生態系に与える
経済的損失は
毎年80億ドル（約879億円）
にのぼるという。



海洋プラスチック問題の現状

海洋ごみの影響により、魚類、海鳥、アザラシなどの海洋哺乳動物、ウミガメを含む少なくとも約700種の生物が傷つけられたり死んだりしています。

このうち92%がプラスチックごみの影響で、漁網などに絡まったり、ポリ袋を餌と間違えて摂取することによるものです。



海洋プラスチック問題、私たちができること

「捨てればごみ、分ければ資源」と言われますが、プラスチックも、きちんと分別すれば資源としてリサイクルすることができます。日本では、プラスチックごみを分別回収し、プラスチックをリサイクルする社会の仕組みもできています。しかし、日本の廃プラスチックのリサイクル率は27.8%で、リサイクルがあまり進んでいません。回収された容器包装プラスチックの半分以上は燃やして発電や熱利用に使われ、14%は未利用のまま、焼却や埋め立てることで処分されているのが実情です。

もっとプラスチックの3R（リデュース・リユース・リサイクル）を進め、プラスチックを有効に、賢く利用することで、海のプラスチックごみも減らすことができるはずです。

リデュース
Reduce
ごみになるものを減らす

マイバッグを持参してレジ袋を減らす
使い捨ての食器や容器を減らす など

リユース
Reuse
繰り返し使う

シャンプーや洗剤は詰め替えを使い、
ボトルを再使用する など

リサイクル
Recycle
原材料として再生利用する

プラスチックを分別回収し、
原料として再利用する
再生プラスチックの製品を使う など

海洋プラスチック問題、私たちができること

私たちは、毎日のようにプラスチックを使い、プラスチックごみを出しています。例えば、お店でもらうレジ袋、プラスチック製のスプーンやストロー、商品のパッケージ…。日本は、一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量が世界で2番目に多い国です。プラスチックの3Rを進めるためには、私たち一人ひとりが毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす取組をしていくことが重要です。次のような行動を参考に、皆さんも生活の中で実践していきませんか。



~プラスチックごみを減らすための行動~

- マイバッグを持参し、レジ袋はもらわない
- マイボトルを持ち歩き、プラスチックのカップを減らす
- マイ箸を持ち歩き、プラスチックのスプーンやフォークを減らす
- プラスチック製のストローの使用を控える
- スーパーなどで食品を小分けにするポリ袋の使用を減らす
- 詰め替え用ボトルなど繰り返し使えるものを選ぶ
- 食品の保存はふた付き容器を使い、ラップの使用を減らす
- 買い物のときには簡易包装を頼む
- 海・川・山のレジャーではごみを持ち帰る
- 屋外で出たごみは家に持ち帰って処分する
- 河川敷や海岸の清掃活動に参加する
- ごみは所定の場所・時間に、分別して出す
- ごみのポイ捨て、不法投棄はしない